

GUMI 2017 : Gunma University Medical Innovation 2017 Symposium Report 4th International Symposium of Gunma University Medical Innovation 出席報告

2017年11月6日(月)表記シンポジウムが前橋商工会議所にて開催され、NPO WBNからも過去3回報告参加しており、今年も出席してきました。以下はシンポジウムの出席報告です。

シンポジウム : GUMI(Gunma University Medical Innovation) 2017

(4th International Symposium of Gunma University Medical Innovation)

開催日時 : 2017年11月6日、p.m. 1:00~5:00

開催場所 : 前橋商工会議所 ; ROSE and LILY

主催 : 群馬大学

シンポジウムは群馬大学・平塚浩士学長の歓迎挨拶で開始され、次いで招待講演が Hartford HealthCare Cancer Institute, NY の Peter Paul Yu 博士(M.D. FACP, FASCO)によりなされた:氏は2016年 Hartford HealthCare Cancer Institute の内科部長に就任後 Hartford HealthCare 研究組織の上級副理事長 (Senior Vice President) の要職にある。

講演題目は : Accelerating Knowledge Generation in Cancer Genomics,

で癌細胞のゲノム解析に関する知識共有と新たな知識創生についての提言であった:癌治療における personalized medicine 治療と precision medicine 治療における比較を最近の遺伝子コンピュータ解析の高速化からでもなお生じているメリットとデメリットから実証的に解説し、講演者が協力している Sloan Kettering Cancer Alliance での知識共有モデルにおける取り組みを紹介してくれた:以下は講演概要である。

講演概要:21世紀になって癌の生態学と免疫学については大きな進捗があった。過去においては、科学に関する基本的発見から、それを起源にした医療への標準技術となるまでには平均的に17年間を要した。コンピュータの計算能力の進展が癌(細胞)のゲノム解析に基づいた発見のスピードを大きく加速しているので、新たな科学的発見から臨床への適用までに検討すべき過程を減らす傾向にある。以上に述べたこと重点的に推進する取り組みは(米国においては)“精密治療イニシアティブ(Precision Medicine Initiative)”で最も重要視され、新たな幾つかの組織(organizations)と(それらの間の)協力関係(partnership)を生んでいる。Sloan Kettering Cancer 記念アライアンス(The Memorial Sloan Kettering Cancer Alliance)は地域的に分散している地域健康管理組織(community healthcare)とアカデミックな癌センターとの間で新たな知識共有モデルを実現しているが、その目的とするところは臨床の試験研究のための研究基盤を広げることと治療技術と知識を早急に普及させることだ。実際、治療法の基本的アイデアが出されてから実用されるまでには開発の段階がありそれぞれの段階時点(発見から実用化までを4段階に分けて各段階での必要な取り組みを紹介)で検証することを提案していた。

(報告者は癌医療研究の専門家でないので内容に多少の瑕疵存在可能性をご容赦いただきたい)

セッション2ではGUMI 会員による3件の講演がなされた。最初の講演は森口朋尚氏@群馬大学理工学府分子科学部門等の研究成果による”Development of Convenient Genotyping of High-Risk HPV using Fluorescence DNA Probes”であった。森口氏は蛍光 DNA プローブを用いた癌検査を研究テーマとしていて、本講演ではHPV16とHPV18に対してDNA 診断を簡易で効果的に可能な蛍光プローブの開発を目指しての中間報告がなされた。

二つ目の講演として奥浩之氏@群馬大学理工学府分子科学部門等による”Plasminogen Activation by Synthetic Peptides from *Plasmodium falciparum* Enolase: a Proof of Concept Study of AD22 Malaria Vaccine Project”がなされ（奥氏は熱帯熱マラリアの予防と診断をするための人工抗原ペプチドの合成研究等を研究テーマとしているとの紹介があった）、続いて武井雄一氏@群馬大学大学院・医科学研究専攻等による”Magnetoencephalography study of neural activity transition during facial recognition using self-organizing map analysis”が三つ目の講演としてなされた。その後 poster session に移った。

p.m. 4:10 よりセッション3が開催され、GUMI 会員により更に3つの講演がなされ p.m.5:00 に閉会した。



平塚浩士学長による Welcome Address



Dr. Peter Paul Yun@Hartford HealthCare Cancer Institute による招待講演